

■日本燃焼学会創立50周年記念特集■

再録：燃焼研究第50号(1979)1

1. 会長就任の挨拶

辻 廣

このたびはからずも、会員の皆様のご推挙により、日本燃焼研究会会長(第4代)の重責を担うことになりました。まことに身に余る光栄に存じます。本学会長は恒例として、The Chairman, The Japanese Section of the Combustion Institute (国際燃焼学会日本支部長)を兼務することになっており、浅学菲才の私がよくこれらの重責を果たすことができるか否か、まことに身心の引き締まるのを覚えます。

本会は、1953年11月11日、燃焼懇話会として発足しましたが、1954年7月1日、国際的な燃焼学会の組織である The Combustion Institute がアメリカに設立されたのを機に、その日本支部の役割も兼ねる目的で、1954年秋、日本燃焼研究会と改名され、実質的な学会活動に入りました。以来、歴代会長の矢本 栄先生、疋田 強先生、功刀雅長先生をはじめ、先輩諸先生方のなみなみならぬご尽力により、本会は隆昌の一途をたどり、現在、正会員約400名、維持会員32社となり、会員数としてはアメリカに次いで世界第2位の位置を占めるようになりました。またこれに対応して、会員の研究活動も極めて活発になり、皆様ご承知の通り、毎年12月に開催される燃焼シンポジウムでの発表論文数も90篇近くに達し、また2年毎に開催される国際燃焼シンポジウムでの発表論文数及び参加者も増加してまいりました。このような活発な研究活動は、幸い外国においても高く評価されるに至り、今から5年前、1974年8月、第15回国際燃焼シンポジウムを日本で開催することができましたことは、まだ我々の記憶に新しいところであります。

現在、汚染物質排出低減の問題、燃焼騒音の問題、さらにエネルギーの有効利用の問題に関連して、燃焼の問題は学界および工業界において非常に重要な問題とされ、燃焼に関する高度の基礎研究の促進ならびに新しい各種燃焼技術の開発は焦眉の急となっております。今後、燃焼研究会の果たすべき役割も極めて大きいものが期待されています。

このような状況にかんがみまして、燃焼研究会といたしましては、有能な幹事の方々のご協力を得て、各種講演討論会の一層の活発化、機関誌「燃焼研究」の充実、国際交流の促進などを柱にして、学会活動を活発に行いたいと考えております。会員各位におかれましても、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。